

平成29年8月29日

独立行政法人 日本スポーツ振興センター

ナショナルトレーニングセンター共用コートにおいて発生した事故に関する
調査結果及び再発防止に向けた取組みについて

日本スポーツ振興センター（以下、「JSC」という。）が管理・運営するナショナルトレーニングセンター（以下、「NTC」という。）共用コートで、平成29年6月10日に発生した床板剥離及びこれに伴う負傷事故（平成29年6月15日「ナショナルトレーニングセンターにおいて発生した事故について」ニュース・リリース）について、事故原因調査等委員会（以下、「委員会」という。）による調査を実施し、調査結果がまとまりましたので報告いたします。あわせて、再発防止に向けた今後の取組みについてお知らせいたします。

怪我をされた選手及びそのご家族並びに関係者に対し、このような事故が発生したことについて、改めて深くお詫び申し上げます。

JSCは、施設の安全管理をさらに徹底し、再発防止に努めてまいります。

1. 委員会報告書について

報告書の概要及び本文は、JSCウェブサイト（以下記載のリンク）に掲載しております。

○掲載先：<http://www.jpnsport.go.jp/hpc/tabid/616/Default.aspx>

2. 調査の概要

(1) 事故の概要

①発生日時

平成29年6月10日（土） 11時25分頃

②負傷者の行動

バレーボール男子ジュニア合宿に参加していた選手が、バレーボールのレシーブの練習中、後方に飛んだボールを追いかけ、レシーブをしようとジャンプし、着地の際にスライディングをしたところ、床材の一部が剥離し、その木片が右太腿に突き刺さり、重傷を負った。

(2) 委員会の設置

体育施設等に関する専門的知見を有する外部有識者及び法律家を含めた委員会を平成29年6月26日に設置した。これまでに委員会を計4回開催し、事故原因の調査、再発防止策に関する検討を行った。

(3) 調査概要

委員会では、共用コートのフロア施工業者や公益財団法人日本体育施設協会による調査（関係者への聴取を含む。）及び海外類似事例等を参考に検討を行った。

(4) 事故原因について

①床板が剥離するに至った物理的な要因

事故発生以前から床板が剥離していたのか、レシーブにより床板が剥離したのかは確定的な結

論を出すことは困難で、床板が剥離した物理的な原因を特定するには至らなかった。

あくまで推測の域を出ないが、元々ひび割れが床板に生じており目視では確認できない程の僅かな床板の浮きなどが、レシーブした際に、一瞬浮き上がるなどして、ユニホームに引っかかり、そのまま体が滑るスピードと相まって床板が剥離し、滑らせた体（太腿）に突き刺さった可能性が考えられる。

なお、日本体育施設協会による調査では、床板が剥離した直接的な要因あるいは遠因として次に示す可能性が挙げられたが、いずれも床板の性能劣化を生じさせて、剥離の原因と特定するまでには至らなかった。

- ・本件事故現場の近くに空調の吹き出し口があり、冷風が当たる場所であったことによる床板の含水率への影響の可能性
- ・バスケットボールのゴール下でアスリートの動きやゴール機材の移動等により特に負荷がかかる場所であったことによる床板のひび割れ等の発生の可能性
- ・床下地材に遮音材を使用したことによってフローリングのたわみを生じさせた可能性

②共用コートの保全・管理面から考えられる要因

共用コートの保全・管理面から考えられる要因として次の点が挙げられているが、直接的な原因となったと特定するまでには至らなかった。

・メンテナンス上の問題

共用コートについては、平成 22 年 2 月～3 月に一度、再塗装及び全面サンダー掛けが行われただけであり、仮に平成 22 年の改修（再塗装）後、何らかの再塗装等が行われていれば、本件事故現場を含め、少なくとも現在よりは良い状態を保っていたはずである。

・日常点検について

共用コートを利用する競技団体において、使用にあたって目視等で床板のひび割れ等がないかチェックしていたが、所有者である JSC あるいは、競技団体等への貸し出し等の運用を担っている公益財団法人日本オリンピック委員会（以下、「JOC」という。）による日常的な点検は行われていなかった。JSC では、日常清掃の中で清掃業者の目視による点検を行っていたが、共用コートのフロアのひび割れ等のチェックは委託の趣旨に含まれているとはいえ、これをもって日常点検が行われていたとは評価し得ない。

・専門家による定期点検について

共用コートについて、フロアの専門家による定期点検は行われていなかった。

・役割分担が不明確であったこと

前述のとおり、日々の日常点検が、使用する競技団体側のみに任せられ、所有者である JSC の日常点検が行われていなかった。また、実際に共用コートの競技団体への貸し出し等の運用を担っていた JOC も、日々の日常点検を主体的に行っていなかった。

本来は、NTC 所有者である JSC が維持・管理を自ら行うべきであったが、上記のように JOC が一括借り上げによりその利用団体に転貸するという運用実態を踏まえ、その責任の所在を明確にしておくべきであった。実態としては、これがなされていなかったことが伺える。

(5) 再発防止に向けての提言

①利用実態に即した計画的な改修（再塗装など）の実施

計画的に改修（再塗装等）を実施する必要がある。専門家とも相談した上で改修計画を立て、定期点検や日常点検によりひび割れ等を発見した場合には、速やかに専門家に相談し、従前の改修計画にとらわれることなく、部分補修や改修を行うなど、柔軟な保全対応が求められる。

②実効性のある日常点検の実施

より実効性のある点検とするために、共用コートの利用者に対して、類似の事故に関連して消費者安全調査委員会から提言されている内容（目視の担当範囲の設定、ダブルチェック、ストックキングの利用等）や床板のチェックポイントの教示、素人でも利用可能な簡易チェック表の作成、提供などを行い、その運用を徹底することが必要である。

③専門家による定期点検の実施

定期的に専門家による点検を行うことは、素人レベルで見つけることが困難な床板のひび割れ等の有無の確認や危険個所の早期発見、利用実態に即した改修計画の見直しにもつながるため、専門家による定期点検は必須である。

④JSC、JOC、利用者（競技団体等）の役割分担の明確化

役割分担・責任関係を明確にすることは、これを負う当事者に対して安全面への意識を徹底させることに繋がり、ひいては、事故の再発防止へと寄与するものであり、今後は、JSC、JOC及び競技団体などの関係者同士で協議を行い、誰が責任をもって共用コートの維持管理を行うのか明確にすべきである。

⑤適切な日常清掃の継続

今後も、水分の使用を最小限に抑えた（木の床は総て人工乾燥が行われており水分の使用は避けることが一般的）適切な日常清掃を継続していくことが望ましい。

⑥情報共有の徹底

競技団体等、関係団体に対し、改めて、体育館の床板剥離による負傷事故の現状と現時点で取り得る対策の共有を徹底すべきである。

3. 再発防止に向けた今後の取組みについて

JSCでは、調査結果及び再発防止に向けた提言を踏まえ、次の取組みを行ってまいります。

(1) 共用コートの利用再開に向けた改修の実施

共用コートの利用再開に向けて、適切な改修を実施いたします。

(2) 定期点検の強化、保全対応等

専門家とも協議の上、共用コートの改修計画を立案し、定期的に専門家による点検を行ってまいります。また、定期点検や日常点検によりひび割れ等を発見した場合には、改修計画にとらわれることなく必要な保全対応を行ってまいります。

なお、これまでと同様に今後も水分の使用を最小限に抑えた適切な日常清掃を継続いたします。

(3) 共用コートの維持管理の適切な役割分担のあり方及び実効的な日常点検の実施方法の検討

共用コートの利用実態等を踏まえた維持管理の適切な役割分担のあり方及び実効性のある日常点検の具体的な実施方法等について、JOC及び競技団体等と一体となって協議・検討を行ってまいります。

(4) 情報共有の徹底

本件事故がバレーボール競技に特化した種類の事故ではなく、木製床を使用する競技の全てで起こり得る事故との認識に立ち、体育館の床板剥離による負傷事故の現状及び現時点で取り得る対策を整理し、競技団体等に対して情報共有を徹底いたします。

以上